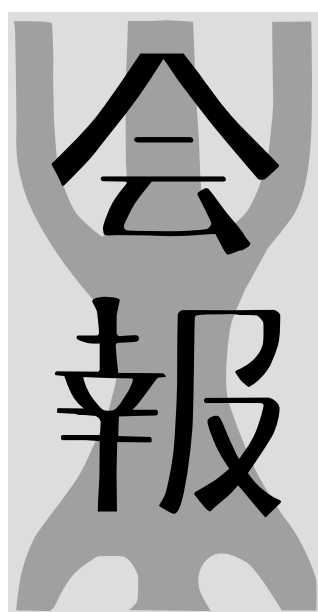


令和3年度

全国教員夏季研修会

期日 令和3年8月19日(木)

形式 オンライン研修



日本私立小学校連合会

〒102-0073

東京都千代田区九段北4-2-25

私学会館別館6階

電話 03(3261)2934

国語部会

子どもとともに創造する

国語授業

安達 真理子(カリタス)

昨年度、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、長い歴史を持つ日本私立小学校連合会全国教員夏季研修会が、残念ながら中止となりました。今年度は、オンラインでの一日のみの実施となりますが、研修会を開催できますことに、心より感謝いたします。また、私事で恐縮ですが、今年度、私はカリタス小学校に籍を移しました。国語部会実行委員長としては、これまで同様に務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。

今回の研究主題も「子どもとともに創造する国語授業」とし、コロナ禍にあっても、子どもたちひとりひとりが「主体的・対話的で深い学び」を実現することができるよう、

国語授業づくりの工夫やアイデアを出し合い、学び合いたいと思います。

さて、国語部会は九時からの開会式の後、全体会として鈴木順子先生(青山学院)による研究授業(事前に収録した動画)を配信いたします。五年生の言語事項(言葉の決まり等)の授業を予定しています。それに続いて、授業をめぐるのパネルディスカッションを行います。パネラーは、北井泰司先生(雲雀丘学園)・村上博之先生(関東学院)・福永俊文先生(福岡海星女子学院附)の三名です。

その後十一時～十二時、提案発表①として、三つの分科会に分かれます。第一分科会は、小林紀江先生(帝塚山)による低学年の「読むこと」実践、第二分科会は、田中史彦先生・渡部彩子先生(桐蔭学園)による低・高学年の「シンキング・ツール」実践、第三分科会は、長田柊香先生・鈴木秀典先生・木村大望先生(成城学園)による中・高学年の「読むこと」実践です。

午後は、十三時～十四時の提案発表②と、十四時十五分からの講

演を行います。提案発表②の第一分科会は、瀧川賢治先生(一燈園)による高学年の「読むこと」実践、第二分科会は、佐藤浩太郎先生(桐光学園)による高学年の「書くこと」実践、第三分科会は、堀口史哲先生(立教女学院)による中学年の「書くこと」実践です。

＊提案発表①②ともに、分科会の参加について、事前の登録は必要ありません。

講演は、鶴田清司先生(都留文科大学教授)にお願いしました。『「ごんぎつね」の「解釈」と「分析」』『明治図書』や『なぜ「ごんぎつね」は定番教材になったのかー国語教師のための「ごんぎつね」入門ー』(明治図書)等のご著書から、『ごんぎつね』研究の第一人者としてご存知の方も多くおられるでしょう。しかし今回は、近著『教科の本質をふまえたコンピテンシー・ベースの国語科授業づくり』(明治図書)に基づき、新学習指導要領で目指す「コンピテンシー・ベース」の国語授業づくりについてご教示いただけますよう、お願いしています。「見方・考え方」を働かせ、論理的思考力・

表現力を育てる国語授業について、本質的また具体的に学ばせていただけるものと期待しています。先生方の積極的なご参加を、お待ちしております。

奮ってご参加ください。

社会科部会

「行動の一〇年」の社会科教育

東原 秀郎(国立学園)

コロナウイルスの感染対策をしながらの学校生活は、子どもたちの学びの状況や研究活動に大きな影響を及ぼしました。昨年度から実施された新しい学習指導要領に込められた思いを、私学社会科の学習を通してどのように実現していくことができるとのかといった研究は、今後の課題として残しておきたいと思っています。今年度の社会科部会の研究テーマは『「行動の一〇年」の社会科教育』と設定しました。SDGs達成のための「行動の一〇年」に、私たち小学

校社会科の教員は何ができるのか。社会科を通して、子どもたちに何を教え、考えさせ、行動できるようにしていくのか。皆さんと共に学び、考えたいと思います。

今年の研修会は、一日限りのオンライン開催です。午前中は、講師に政府委員も多く務めエネルギー・環境政策に幅広く提言活動を行っていらっしゃる国際環境研究所理事・主席研究員の竹内純子氏をお迎えし、ご講演いただきます。気候変動問題と密接に関係するエネルギーについてのお話からは、私たちにたくさん示唆をいただけることでしょう。午後は、グループに分かれて、講演を受けての意見交換や実践の検討、各校のSDGsの取り組み等についての情報交換等を行いたいと思います。

初のオンライン開催ということですが、いつもとは勝手が違います。得るものの多い研修会にしたいと思っております。また、みなさんと顔を合わせ、汗を拭きながら学び合える日が来ることを信じて、コロナ禍を乗り越えましょう。多くの皆さんのご参加をお待ちしております。

算数部会

学びを深める算数授業づくり

鈴木 純(学習院)

昨年は新型コロナウイルス感染予防の観点から休校の措置が取られて、子どもも教師も悩んだことかと思えます。そんな中で、私立小学校の教員である私たちは「これもできない、あれもできない。」「とりあえず、知識や技能だけを教えよう。」とネガティブになることなく、数学的な見方・考え方を育てるために試行錯誤してきました。ともすると例年以上に数学的な見方・考え方に向き合い、学びを深めようと努力をし続けているといえるのではないのでしょうか。

本年度は、オンラインによる一日の研修会ではありますが、参加者皆様の英知を集めて、共に研鑽できればと考えております。

昨年度まで運営委員長を務められていた時川郁夫先生(森村学園)のご

意思を引き継ぎ、さらに子どもたちの学びを深めるためにはどのように授業をつくっていくのかという点に焦点を当てて研修会を開催いたします。

運営は、小田有先生(成城学園)、石塚宏樹先生(関東学院六浦)、戸田常雄先生(追手門学院)、鈴木純(学習院)を中心に東初協算数研究部の先生方のお力も借りながら進めていきます。今回は、オンラインですが、講演を聞くという受け身ではなく、アグレッシブに参加できる内容にいたしました。

午前中の最初に行われるのは、浅田真一先生(国立学園)による研究授業です。内容は、五年生の「 $\times$ 小数、分数における乗法の意味の拡張です。事前に授業は教師視点と子ども視点で同時にビデオ撮りをしていただきます。このビデオを参加者の皆様に見ていただき、教師の言葉かけ、子どもたちの変容を見取り、研究協議を進めます。

次に行われるのは、西日本地区、関東地区、東京地区からの研究発表です。それぞれの地区からお一人の先生に二十分のお時間で「学びを深

める」ためにされている研究や実践を発表していただき、学ばせていただくと考えております。

午後の最初には吉田映子先生(学習院大学非常勤講師)による九十分のワークショップです。「深い学びの実現―学びを愉しむ『ハンズオン・マス』を体験しよう―」というタイトルで、吉田先生と一緒に算数を愉しみます。ハンズオン・マスとは、実際に教具に触って遊んで試して考えるなかで、子どもの興味・関心を引き出す体験型の算数のことです。ハンズオン・マスの大家でいらっしゃる吉田先生との時間は充実したものになることをお約束します。

最後に、テーマごとのグループに分かれて一時間ほどの懇談会を行います。テーマは、①研究授業について、②ICTの活用について、③低学年、④中学年、⑤高学年、⑥コロナ禍における各校の算数への対応、⑦初任者お悩み相談、⑧資質能力を深める授業と数学的な見方・考え方です。先生方が興味を持ったグループに参加していただければと思います。

皆様と一緒に価値ある研修会にできればと考えております。

よろしく願いいたします。

理科部会

おもしろい理科の

授業をつくる

天井 比呂(雲雀丘学園)

昨年は、京都の皆様にお目にかかれることを楽しみにしておりましたが、残念ながら中止という残念な結果に終わりました。そんな中でも各地区では、オンラインを駆使して研修会を行い、日々研鑽されていたようにお聞きしております。皆さんが前を向き子どもたちのために面白い授業作りに努めておられる積極的な姿勢を見ることができたように思います。

今年こそは実際にお顔を合わせて研修ができると思っておりますが、一日だけになり、オンラインという形になりました。そこで、どの

ような研修会にすればよいかを各地区の運営委員の先生方と東京の委員の方で検討しました結果、やはり理科部会の主役は参加者の皆さんであり、理科部の諸先輩方が築いてこられた「一枚のレポートでもOK。日頃の実践を持ち寄って参加しよう」という精神をコロナ禍の中でも引き継いでいこうということになりました。

緊急事態宣言の中で行われたそれぞれの工夫などの発表、またオンラインという形で行うことの特性を生かした理科授業や実験など、今後の情勢の変化に対応できるような発表が聞くことができるのではないかと考えています。また、それにかかわらず、日頃の先生方の研究成果など今後の糧になる発表が行われることでしょう。

このコロナ禍を糧にして楽しい授業を目指してまいりましょう。

発表者の募集につきましては、各地区の運営委員より改めてご案内申し上げます。ふるってご参加していただきますようお願い申し上げます。皆さんでこの研修会を盛り上げてまいりましょう。

音楽部会

ふれあいと学びを通して

室伏 唯史(学習院)

今年度の研修主題は「音楽を通してのふれあいと学び」表現する楽しさを忘れないために」と題しました。

コロナ禍によって教科指導や学校行事など、様々な制約を受けました。緊急事態宣言が発せられた当初は、感染予防に伴い、他人と触れ合うことや関わり方など、必要以上に気遣わなければならなくなりました。新学期を迎えても休校が続き、学校再開では分散登校を強いられ、子供たちにとっては、学校へ向ける思いや気持ちがいまならない時期を過ごしました。教師と子供、仲間同士の心の距離が離れてしまうことなく、様々な策がとられました。加えて、先生方にとっても授業の確保や消毒などの教室管理、学校行事への対応な

ど業務が膨らむなか、ご自身が音楽を愛する気持ちや子供たちへ音楽を伝える喜びなど、悩まれたのではないのでしょうか。そのようなことを振り返り、教師も子供も含めて、音楽が与えてくれる感動の共有とその瞬間を忘れることがないように、という願いを込めて、このような研究課題を掲げました。

主な研修内容ですが、午前中は、コロナ禍での実践報告と題して、先行き不安な渦中をどのような工夫をされたかを全国レベルで共有したいと考えています。

時間の制約の関係から、各地区の先生方お一人ずつ提案、発表していただくことにしました。地域や学校による感染対策の違い、従来通りには行えなくなった歌唱指導や楽器指導の方法などはもちろん、ICT機器を用いた双方向の指導例などもご紹介したいと思えます。制約から生まれた新しい授業のスタイルなども期待しております。

午後は、打楽器奏者の村本寛太郎先生に講演と演奏をお願いしました。村本先生は、幼児教育から

アマチュアやプロを対象にした専門教育、そして合唱や管弦楽の指揮など幅広くご活躍なさっています。感染症対策で制約が続くなか、打楽器を用いた授業づくりはたいへん魅力あるものです。楽器の奏法やメンテナンスはもちろんのこと、このような状況下でも子供たちの興味関心が失われることなくできる指導法など、最適なアドバースをお願ひしたいと思っています。また、昨今は演奏会場に足を運んで音楽を味わう機会が奪われました。村本先生には、日頃から聴く機会の少ない打楽器の作品のなかから、素晴らしい作品を厳選してご紹介願えればと企画しております。リモート演奏会になりますが、打楽器の魅力をリアルタイムでお楽しみください。

先生方とともに、リアルで演奏される音楽を味わい、その感動を子供たちへ還元されてこそ、意義ある研修会ではないかと思えます。自ら体験した音楽の魅力を子供たちへ伝えられる教育、これが芸術教育の原点ではないかと考えています。

一日限りの研修会ですが、先生方とともに、新しいスタイルでの交流を通じながら、その成果を存分に得られることを願っています。

図工部会

図工だからこそできること

秋山 朋也(成城学園)

学校が大きく変わろうとしていると感じているのは私だけではないはずです。世界的情勢による教育に対する外圧というとスプートニクショックと同じくらい教育界が変容すると感じています。コロナの影響もあって、オンラインでの授業や、オンデマンド形式で課題を出すなど、ICT機器を授業に取り入れた学校が増えたかと思えます。この状況下で見えてきたことは、図工の授業は、感覚や感性を通して創り出すこととともに、その同じ時間を見童同士が共有することが大事だと改めて痛感しました。しかしながら、

ICT機器を活用して図工授業の可能性を探っている方も多くいらっしゃるかと考えています。

今回の夏季研修会はオンライン形式で実施するということもあり、皆様が抱えている課題や新たな取り組みなど情報共有を図り、図工だからこそできる授業を、図工だからこそ育める力を皆さんとともに考えたいと思います。

体育部会

21世紀に生きる

子どもたちのための保健体育

綾田 満成

(ノートルダム学院)

今年度の体育部会は、メイン会場を東京地区の先生方に担当していただき、web発信にて開催します。

午前の開会式に始まり、東京地区からは、自由学園の森井 宏之先生が「子どもの本当の力を引き出す体育授業とは」と題し、発表されます。

関東地区からは関東学院の西麻紀子先生が「タブレット端末を活用した学びの充実を目指して」(仮)と題し実践発表をしてくださいます。また、午後からは、西日本地区から、奈良学園の古田 浩大先生が、「奈良学園小学校の体力づくりの実践」と題し発表されます。

そして、今回研修の締めとして、「体育の授業で育む力とは」と題し、東初協体育部から風間 啓介先生、そして、その他いろいろな立場の先生方をお迎えパネルディスカッションを行う予定です。

それぞれの発表の最後には、ブレイクアウトセッション機能でグループディスカッションも行い先生方の意見交流も行いたいと思います。

このコロナ禍の中で、参加者が一つの会場に集まり開催することもできず、また日数も一日に短縮ということでも残念に思いますが、参加していただいた先生方に今後の教育活動に活かせる研修になるよう運営委員一同取り組んでまいります。また、webでの強みを活かし、日常ではなかなか参加が難しかった、遠方の先生方とも交流が持てたらと

思います。どうぞ奮ってご参加ください。

学校保健部会

新しい学校生活における

養護教諭の在り方

鈴木 もとみ(仁川学院)

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、社会生活のみならず学校生活もガラッと様変わりした一年でした。何が正解かわからない中で、未知のウイルスへの恐怖と戦う日々でした。そんな状況の時、近隣校の養護教諭同士が情報交換を行ったり、全国各地区でオンラインなどの研修を実施されたことと思います。養護教諭同士が繋がり合えることがどれほど有難いかを実感する一年となりました。さて、今年度の研修はオンラインでの実施となりますが、午前は、東京地区の先生方が実施された「子どもの生活リズム

ム・からだと心に関する調査」について発表していただきます。この調査は新型コロナウイルス感染症の終息が見込めず、子どもたちが様々な制限を強いられている状況下で、子どもたちの生活状況や抱えている不安について調査されたものです。一九校、三七七名という沢山の回答を得て、そこから今後、子どもたちにどうかかわっていく必要があるのか、今の子どもたちに必要なことは何か、子どもたちが抱える健康課題や、子どもが発するSOSについて、考察・議論された過程を発表していただきます。また、当日は日本体育大学の先生にもアドバイザーとしてご助言いただく予定となっております。

午後は、東京慈恵会医科大学解剖学講座 教授であり、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)副理事長を務める岡部正隆先生に「色弱の子どもたちに学校でできるサポートについて」というテーマでご講演いただきます。岡部先生は、慈恵医大で解剖学の教鞭を取るかたわら、色覚のタイプの違い

に関わらず情報が正確に伝わるように工夫した色違い、すなわちカラーユニバーサルデザインの普及活動や、ご自身がP型色覚(二型一色覚)であり、日常生活で体験した不便な経験を活かし、公共の色遣いやプロダクトデザインに対する助言を行なっております。

日本で色弱の人は男性で二〇人に一人、女性で五〇〇人に一人の割合で存在すると言われ、学級に一人いてもおかしくない状況です。

CUDOでは、一般の人と色の感じ方が異なることで、情報弱者になっている人たちのことを「色弱者」と呼んでおり、彼等の持つ視覚特性を「色弱」と定義しています。医学用語では「色覚異常」と呼びますが、異常ではなく色の感じ方が人と異なるだけであり、感覚の多様性の一つであると同部先生はお話しされています。

現在では、発達障害や学習障害、そして今回のテーマでもある「色弱」も障害として捉えるのではなく、その子の持つ特性であると今こそ我々教員がしっかり理解することが大切であると考えます。クラスにおいて当

然と認識し、授業作りや日々のサポートをしていくことで色弱の子どもたちへの配慮に繋がっていくのではないのでしょうか。

多様化する現代だからこそ、教員がちよっとした気付きを大切にサポートできるきっかけになる講演になると思います。

普段は持ち場を離れにくい養護教諭ですが、オンラインだからこそ、全国の沢山の先生方に御参加いただけることを願っています。

学級経営部会

心をつなげる学級経営

大橋 駿一(桐朋学園)

学級経営部会では、「つなげるつなげる学級経営」を基盤として研修しています。本部会では、次の日にも実践できるように、これからの学校教育を担っていくお若い先生方から、長きに渡って学級経営されてきたベテランの先生方が幅広く情

報交換、情報共有ができるような心がけています。どの先生方もすぐに実践したくなるようなことを得ることができるよう、本部会ならではの思いです。今年度はオンラインでの研修にはなりますが、「参加してよかった。」と思っていただけるような研修会を企画したいと思っております。そして、この研修会で、大切なことはやはり教員と児童が心を通わせることなのだと思って感じられるような研修会にしたいと思っています。今回の研修は二つの柱を軸にして研修会を行います。

一つは、ブレイクアウトセッションを用いて情報交換をしながら、学級経営における日頃のお悩みや嬉しかった体験、朝の会のネタ集めなどができるよう小グループでの話し合いをしたいと思っています。画面越しですが、さまざまな年代の先生方と楽しく会話を弾ませて、お悩みが解決できるよう、また、新たな引き出しができるような時間にしたいと思っています。

二つ目は、「多様性」をテーマに、文教大学教育学部教育学研究科の手嶋將博教授の講演をうかがいた

いと考えています。こちらの講演でも小グループに分かれていろいろな問題を考えたり、実践例をもとに考え方の選択肢を増やしたりと、ただ話をうかがうだけではなく、より充実したものになります。今回の研修会では直接皆様とお会いすることはできませんが、このご時世でもできる、このご時世だからこそできる研修を皆様にご提供できればと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

メディア教育部会

これからの教育の

カタチを考える

～一人一台の活用と実践～

田中 栄太郎

(日本女子大学附属豊明)

今年度の部会のテーマは「これからの教育のカタチを考える～一人一台の活用と実践～」です。GIGA

スクール構想が始動した今年、私立学校もそれぞれの学校の方針を礎にして、ICTを活用した『子どもの力を最大限に引き出す学び』を考え、いく必要があります。各校それぞれに目指す児童像があり、子どもたち一人ひとりに最適で、創造性を育む学習をどう取り入れていくかを悩みながらも取り組んでいるのではないのでしょうか。メディア教育部会では、新しい時代を担う子どもたちに必要な教育は何かを考えていく部会になればと企画を進めております。

午前中は開会式の動画視聴の後、三地区の地区報告から始まります。昨年度はコロナ禍の休校、オンラインの対応など未曾有の経験をした一年でした。各地区での活動も制限され、例年のように行えなかったことと思います。その中での所感も含めたご報告をいただきます。

続いては各地区の実践提案発表になります。毎年新しいアイデアを取り入れた実践の話が伺えます。今年の東京地区は少し趣向を変え、東京各校に一人一台端末の環境や内容についてのアンケートをとり、発表する予定です。端末の導入方法から採

用しているアプリケーション、端末の制限、設定内容など、お互いに気になるところを掘り下げて考察できればと考えております(東京地区の各校には六月の東京地区研修にてアンケートの詳細をアナウンスしますので、ご回答のご協力をお願いいたします。)

午後は国際大学グローバルコミュニケーションセンター准教授、主幹研究員である、豊福晋平氏のご講演です。豊福氏は、長年にわたり教育と情報化のテーマに取り組んでこられ、近年では経済産業省のSTEAMコンテンツの開発やデジタル・シティズンシップの普及にも携わっておられます。デジタルトランスフォーメーションや一人一台端末の時代の子どもたちに何が必要なのか、我々教員は何を目指すべきなのか、これからの教育のあり方が見えてくる内容になることと思います。

おそらくこの一学期は、一人一台端末導入でいろいろな検討することが多い学期であると思います。それがひと段落ついて迎える八月の研修では、我々が二学期に向けて何を目標せば良いのか、その方向性を得

る機会になることと思います。

たくさんの方のご参加いただき、ともに考えることができれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

学校図書館部会

遠隔授業などICTを使った
読書教育・図書館運営の検討

岩井 祐介(慶應義塾)

今年度の全国教員夏季研修会はオンライン形式で一日のみの開催となりました。これを物理的に移動しなくて良い、時間が短縮されたと捉えることもできますが、開催地区の学校や風土を実際に体験できない、教員同士の対面での交流ができないと捉えることもできます。二〇二〇年三月の緊急事態宣言から始まった、コロナ禍での図書館運営や読書教育もまた、これまでと異なる状況となりました。突然始まった休校、そして学校再開、各校、試行錯誤を繰り返

返し、様々な取り組みがなされてきたかと思えます。

そこで今回の夏季研修会では、オンライン形式ならではの企画を二つ考えてみました。一つはコロナ禍での読書教育や図書館運営について情報交換をしようというものです。まず全国の各地区から、コロナ禍での具体的な実践例をいくつか紹介していただく予定です。その後、オンライン上で情報交換会を行います。上手いこと、今後の課題など、夏季研修会の参加校の方々と情報交換できることを楽しみにしております。コロナ禍では、遠隔授業などICTの活用が迫られるケースが多くなってきました。これを機に、デジタルとアナログをともに取り入れた、新しい図書館運営や読書教育の在り方を模索する機会と捉えることもできます。デジタルとアナログの夫々の特徴や今後の課題について具体的に検討できれば幸いです。

夏季研修会のもう一つの内容は、海外とつながるオンラインツアーを予定しています。今回はフィンランドと日本をつなぎ、『ムーミン』シリ

ズの作者、トーベ・ヤンソンの研究家の方にツアーをしていただきませう。トーベ・ヤンソンが過ごした地の取材や現地の方の朗読など、海外児童文学の世界を肌で感じられたらと思います。日本とフィンランドの時差は六時間ありますが、リアルタイムで現在の様子なども伺えるかと思っています。こうした海外のオンラインツアーも、オンライン形式の研修会だからこそできる試みで、新しい図書館運営のヒントにもなればと考えています。

以上二つの内容で夏季研修会を予定しています。多くの皆様の参加をお待ちしています。

外国語部会

二十一世紀の国際社会を 生き抜く世界人の育成

合田 紀子(青山学院)

今年度、日私小連全国教員夏季研修会で、第三十二回外国語部会を開

催することとなりました。昨年度は、コロナ禍のため、研修会が開催できませんでしたが、毎年全国各地から多くの先生方が参加してくださっています。そこでは、外国語を取り巻く様々なテーマについて講演や現場の先生方からの実践報告を伺う機会があります。

今回の研修会では、昨年度に引き続き「二十一世紀の国際社会を生き抜く世界人の育成」というテーマを掲げ、オンライン形式で一日研修を予定しています。

午前は、開会式の動画を視聴後、教育界で活躍されている山本崇雄先生(新渡戸文化中高等学校総括校長補佐)より、「持続可能な世界のために、自律的な子どもたちを育む」英語教育の視点から」と題して、ご講演をしていただきます。教える教育から教えない教育という新しい学力観についてお話をさせていただきます。また、九州地区を代表して、ジェームス・バーディス(James Burdis)先生(明治学園)と西日本地区を代表して、マシュー・バティスティ(Matthew Battisti)先生(甲南)より英語の授業研究を

中心とした実践報告をしていただきます。

午後は、国際的に経済界でご活躍されている村上由美子氏(OECD経済協力開発機構東京センター前所長)より、「国際社会から見た人材育成」と題して、ご講演をしていただきます。様々な角度から世界の中で、グローバルな視点を持つことの大切さについてお話をさせていただきます。また、北海道・東北地区を代表してアンドリュー・ランカシャー(Andrew Lankshar)先生(郡山ザベリオ学園)と関東地区を代表して、阿部志乃先生(横須賀学院)より新しい時代に向けた英語教育の実践報告をしていただきます。

本研修会は、一日という限られた時間の中で、講演、実践報告などを予定しています。ぜひ、一人でも多くの先生方に参加していただき、コロナ禍にあっても将来の子どもたちのことを思いながら良い学びに繋がっていただきたいと思います。研修会でお会いできることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

家庭科部会

新しい暮らし方の中での 日本文化の継承

明石ゆかり(武蔵野東)

今年度の家庭科部会は、「日本文化の継承」を、現在の新しい暮らし方や生活様式の中で見つめていく研修を行ってまいります。

研修は、女子栄養短大(食文化)と、関東学院大学(環境系)の講師で、和食文化国民会議 普及啓発部会の幹事でいらっしゃる海老原誠治氏に「大切にするかたちと和食文化を通じて、さまざまな敬意と環境負荷を考える」と題して講演をしていただきます。

和食がユネスコ無形文化遺産に登録されましたが、時代によっても変化し、地域によっても様々です。

一体、和食とは何でしょうか。

ユネスコへの提案書類には、変化に富み、様々であると同時に、必ず「自然への敬意」を伴うモノが和食と

定義されています。

「食」を取り巻く「敬い」に注目し、日本文化における、敬う「やり方・かたち」に関して、和食や和食器を教材として、デモンストレーションを交えながら四つの項目を紹介致します。

①海外・異文化をどの様に敬ってきたのか

②季節・天気・雨水、自然を、どの様に敬ってきたのか

③命・食べ物・道具をどの様に敬ってきたのか

④食を通じて、人をどの様に敬ってきたのか

一方、現代においては教育も整い環境負荷に関しての知識は充分にあるにも関わらず、環境行動が不十分であり、自ら動く為の動機の欠如が指摘されます。

このような背景を踏まえ、「食」を取り巻く環境問題や、SDGsに関し、小学校四～六年生の社会(水、3R、農業、異文化理解、国際協力)との関連を意識したデモンストレーションを中心に過去と現在の事例を交えながら、「食」に関する課題も紹介致します。

◎紹介する「食」の課題

①水資源に関しては、水に対する敬いと、SDGs(②食料、⑥水)

②北前船と鯨漁、肥料とSDGs(②食料、⑭海の資源、⑮陸の資源)

③鯨漁と害虫駆除、遺伝子組み換え種の企業戦略、SDGs(②食料、⑮陸の資源)

⑤陸の資源

④繕いと、リデュースとリユースとSDGs(⑫生産と消費)

今年是一日だけの研修となりますが、これからの新しい暮らし方の中で活かす、家庭科教育に繋がっていく研修であることを願っております。

また、画面越しではありますが、先生方とお会いして、家庭科についてお話しできますことを楽しみにしております。

生活・総合部会

生活・総合部会

実践から学ぶ

大谷 一途 (慶應義塾)

通常の三日の研修から、今回は、

新型コロナウイルス感染対策下で研修を行うため、制約がかかって、一日のみの研修となりました。

東京地区の研修では、常々多くの先生方から、「現場の実践から学びたい」と「有意義な実技活動で、教材研究を行いたい」という二つの研修に対するニーズがあります。

一方、今回は、前回の研修会が、新年度を前にして中止となったいきさつがあります。実践発表を目前にして、発表を断念せざるをえなかった先生方もいらつしやると拝察しました。そこで、今夏は、各地区から実践の発表をして頂くこととしました。

都会では、様々な小動物を捕獲し、教室で飼育することが難しいものです。そこで、手軽なので、という理由で、よく行われるのが、ダンゴムシの飼育です。この単元で、あえて実践発表をしてくださる先生が、今回お二方いらっしゃいます。「もう少し学校が郊外にあれば」と嘆くのではなく、積極的に、どこでも捕獲できるダンゴムシにこだわった子どもたちと先生の学習記録から、多くのことを学べるのではないかと思います。

また、感染防止対策のために、一時難しかった学校での調理実習を逆手にとり、遠隔学習、自宅学習で調理を行ったり、この状況下で、一挙に学習ツールとして普及したタブレットを使ったりして、新型コロナウイルス感染防止対策下ならではの実践となった総合の授業の報告や、学校の身近な植物を使った草木染めの実践もあります。

各地区の発表を視聴して頂いた後に、一番興味深い実践を選び、ブレイクルームに分かれて、さらに深く学んで頂くグループディスカッションも行います。少人数の方が、意見交換が弾むので、毎回好評な研修です。

充実した一日となることを願い、準備を進めさせて頂いております。



学校劇部会

子どもたちに心のつながりを
〜今できる・今こそしたい
劇活動〜

保坂 弘之(成城学園)

全国どの学校でも、新しい学校の姿を模索して大変なことだと思います。一気にオンラインやIT機器を使った授業も試みられていると思います。

そんな中でも、いや、そんな中でこそ、子どもたち同士の心のつながりは、大切にしなければいけないのだと思います。ですから、今年度の学校劇部のテーマは、「今できる・今こそしたい劇活動」としました。

「教科学習の中で劇的活動を取り入れてみたい」

「学級経営で何か取り入れられるものはないかな」

こんなことを考えている方、是非いらしてください。

「何か劇は苦手。」「敷居が高い。」

「自分はちょっと引いてしまう。」そんな方も大丈夫です。まず、教師が創ることを楽しむ体験と一緒にしましょう！

さて、今年度の最初は、各地区からの活動の報告で、西日本地区、関東地区、東京地区、それぞれの活動の報告をしてもらいます。その中で、いくつかは、実際に体験してみても、参加者の皆さんで共有できたらと思います。

次は、昨年発表していただけなかった、京都文教短大附属の扶間理沙先生による実践報告「舞台発表『音読ランドへようこそ！』の取り組み」です。一年生の国語の学習を学習発表会で舞台発表した取り組みの様子と、舞台発表の様子を報告させていただきます。

お昼の時間も、ルームは開けておく予定です。今回のテーマと関係なくとも「劇上演用の脚本はありませんか?」「ソーシャルディスタンスをとったゲームはどんなことができますか?」といった、気軽な相談もできる時間になりたいと思います。Zoom飲み会ならぬ、Zoomランチ会も自由参加で考えています。

さて、午後は、俳優でインプロ・ワークス代表の絹川友梨さんをお招きして、

「オンラインでファシリテーションを学ぶ〜インプロ(即興)の技法を使つて〜」

というテーマでワークシヨップをしていただきます。絹川友梨さんは、インプロ(即興劇)の第一人者で舞台人としての活躍はもちろん、インプロの技法を使って教育や様々な分野でも活躍されている方です。オンラインによるワークシヨップですが、教室でも、オンラインでも、様々な場面で活用できる「ファシリテーション」を学ぶことができます。ワークシヨップが終わった時には、参加者同士のつながりも実感できると思います。

子どもたちへ多くのものが還元でき、参加者の方同士もつながりを体験できる。それが第一〇回学校劇部会です。

「もっと活動してみたい。」
「早く、子どもたちと実践してみたい」
そんな部会にしたいと思っています。多くの方の参加をお待ちしています。

MEMO

令和3年度 第45回 全国教頭研修会

期日 令和3年8月20日(金)

形式 オンライン研修

これからの教育に必要なこと

市川 智(武蔵野東)

第四五回全国教頭研修会、東京地区運営委員長の市川です。八月二〇日(金)にオンラインにて開催される研修会についてご案内いたします。

当日の予定

九時 入室開始(Zoom)

九時三十分 開会式

①開会の挨拶(東京)

②各地区運営委員からの挨拶

(北海道・東北、関東、西日本、

九州)

十時 第一部

「これからの教育に必要なこと」

講師 平井総一郎 氏

平井氏は、文部科学省ICT活用教育アドバイザー・総務省プログラミング教育事業推進会議委員・茨城大学非常勤講師をされております。質疑応答につきましては、申し込み時と当日チャットで質問をしていただき、平井氏にお答えいただく予定です。

十一時十五分 第二部

「情報交換」

ブレイクアウトセッションを利用

して六名ほどのグループで情報交換をいたします。二十分間を二回行います。進行はグループの参加者に委ねます。申し込みの際、選んでいたテーマごとにグループ分けをします。テーマは、

・休校中の対応をどのように進め
たかについて

・校内コロナ対策について

・ICT教育の導入について

・今年度の宿泊学習や修学旅行な
どの行事の進め方について

・その他

を予定しています。

十二時 閉会式

①参加者へのお礼(東京)

②来年度開催地からの挨拶(関東)

十二時十五分 終了 退室

画面に向き合う時間を限らせていただいた関係で、午前中のみ研修となりますことをご理解ください。

なお、全国教員夏季研修会開催案内と同時期の四月下旬頃に東京私立初等学校会協会(東初協教頭会)からメールで開催案内が送られておりますので、そちらもご確認ください。

全国私立小学校の教頭職の皆さまのご参加をお待ちしております。

MEMO

2020年代の教育宣言

2020年代、私たちは多くの節目を迎えます。学制施行から150年。「大正新教育・八大教育主張講演会」から100年。私立学校振興助成法公布から50年。殊に1941年、国民学校令に合わせた私立小学校廃止の動きから「初等学校」の灯を守り、日本私立小学校連合会が産声をあげて80年となります。これらの節目において常に私立小学校は存在感を示してきました。この歴史に誇りをいただき「一年樹穀、十年樹木、百年樹人」と言った古人にならい、私たちは新たな百年に向けて人を育てる営みを続けます。

2020年代は、人工知能(AI)の想像もつかない発達等によって劇的な社会変革を迎えると言われます。しかし、この潮流の中だからこそ、より人間らしく生きることを疎かにしない心と学力を育てる教育が私立小学校に求められています。

そのために、私たちは、

- 一、それぞれの建学の精神に則り多様な特長をもつ学校群として、伝統を重んじつつ、自由と人権、児童一人一人の個性を尊びます。
- 一、児童愛をかたときも離さず、児童の内なる可能性を引き出す方法を実践・探求します。
- 一、未来を切り拓く資質と心豊かな人間性を育成します。
- 一、真の世界平和と持続可能な環境の維持をめざして、広い視野をもって考え、共感する心や他者尊重の心を育みます。

私たちは、新たな時代に向けて私学人としての自覚を持ち、お互いに磨き合い、我が国初等教育の新たな創造をめざすことをここに宣言します。

2020(令和2)年 6月12日

日本私立小学校連合会